ワイデックス サウンドパートナー 山本一力さんからのメッセージ

迷っているうちに、人生、色褪せてしまう。

直木賞作家
山本一力さん

ある日突然、聴き慣れた映画音楽に異変が・・・

私が聞こえ方に違和感を抱いたのは、『冒険者たち』というフランス映画の音楽を聴いたときでした。大好きで、何度も観てきた映画です。タイトルバックに口笛でメロディが流れてくるのですが、それがものすごく音痴に聞こえたのです。音が歯抜けになっていた。「俺の耳、どうなったんだ?」って、ショックでしたね。ただ、そのときにはまだ補聴器をつけませんでした。ところが、71歳のときに初めて補聴器をつけて、驚いた。まず、自分の靴音が、「コツ、コツ、コツ」と耳に飛び込んできた。長らく消えていることにも気づいていなかった音が、戻ってきたという嬉しい驚きは、経験者にしかわからないと思いますね。

音ばかりでなく、気配や空気感まで伝えてくれる。

人との会話でも、お互い気持ちが乗ってくると息づかいが変わりますよね。その息づかいを感じとれるかどうかで、コミュニケーションも変わります。補聴器をつけるようになって、編集者と話をするときの気配が全く変わった。原稿に意見を言うときは、

ワイデックス サウンドパートナーは、ワイデックスの音づくりの哲学に共感し、毎日をアクティブに楽しむ人たち、そして、補聴器の素晴らしさとワイデックスの「Most Natural Sound」をより多くの人に伝えていく大切な仲間です。

相手もやっぱり気合いを入れるんでしょうね。その気合いを、感じとれるようになったのです。補聴器というのは不思議なもので、つけると気配や空気が違ってくるんです。そうすると、自分の意識まで変わる。すごいもんだと思います。

私は、原稿と向き合うときは意図的に補聴器をつけません。で、一気に原稿10枚くらいを書き上げたあと、次をどう展開させようかと考えるときに補聴器をつける。そうすると、空気感がまるっきり変わるんです。グッと物語の中に入っていける。それぞれの登場人物の声まで、自分の中で響いてきます。物書きの私にとって、今や補聴器は欠かせないものですよ。

人生を大事に使いたいなら、今できることは今すぐやるべき。

『冒険者たち』の口笛がおかしいと思ったときが55歳。そこから20年近く、時間を無駄に積み重ねてきてしまったと痛感します。あのときすぐに補聴器をつけていたらどんなに良かったか。これから補聴器をつける人には、迷わずすぐにつけなさいと言いたい。自分の人生を大事に使いたいなら、今できることはすぐにやった方がいい。

※ 補聴器の品質、効果効能、安全性等を保証するものではありません。
※ 装用者個人の感想です。

PROFILE

山本 一力（やまもと いちりき）

1948年高知県生まれ。1997年「蒼龍」で第77回オール讀物新人賞を受賞し、作家デビュー。2002年、「あかね空」で第126回直木賞受賞。執筆や講演活動に精力的に取り組む一方、音楽や映画にも造詣が深く、公私にわたり充実した毎日を送られている。